

日本摂食嚥下リハビリテーション学会 eラーニング対応

第4分野

摂食嚥下

リハビリテーションの介入

Ⅱ 直接訓練・食事介助・口腔内装置・外科治療—Ver. 3

日本摂食嚥下
リハビリテーション学会 編集

e-learning
e4-2

医歯薬出版株式会社

直接訓練の概念・開始基準・中止基準

Lecturer ▶ 小島千枝子¹，岡田澄子²

1：藤田医科大学保健衛生学部リハビリテーション学科客員教授

2：元藤田保健衛生大学医療科学部リハビリテーション学科准教授*

*：名称は在職当時

学習目標 Learning Goals

- 直接訓練の定義と意義を理解する
- 直接訓練を安全に開始できる条件を知る
- 直接訓練を中止すべき状態を知る

▶ Chapter 1

直接訓練とは → (eラーニング▶スライド2)

直接訓練とは、安全に嚥下するための方法を身につけ、食物を嚥下することを通じて嚥下機能を改善させる訓練である。開始には十分な評価と医師・歯科医師の指示を必要とする。安全に嚥下するための方法には、姿勢調整、食物形態調整、嚥下手技、食器の工夫、環境調整などがある(表1)。

▶ Chapter 1 の確認事項 ▶ eラーニング スライド2対応

- 1 直接訓練の定義を理解する。

表1 安全に嚥下するための方法

食物形態の調整	嚥下調整食の選択 増粘剤(増粘食品)の濃度 段階的摂食訓練
嚥下訓練手技	嚥下反射誘発法 各種機能訓練法 代償的訓練法 残留除去法 一口量の調整 ペーシングの調整
食具の選択・工夫	スプーンを選択 すくいやすい容器 滑り止めマット 箸やスプーンの持ち手の工夫
環境調整	食事に集中しやすい環境 姿勢の安定

など

直接訓練で用いる 嚥下手技

Lecturer ▶ 清水充子

元埼玉県総合リハビリテーションセンター
言語聴覚科担当部長

学習目標 Learning Goals

- ・ 直接訓練で用いる嚥下誘発手技の適応，禁忌を知る
- ・ 各嚥下手技の意義，実施方法を理解し，実施できる

▶ Chapter 1 はじめに → (eラーニング▶スライド1)

直接訓練は，適宜嚥下手技を用いて，より安全で確かな嚥下を狙う。総合的に嚥下器官を使い，実際に食べることを通して機能向上を図るものであり，各訓練手技の意義を理解し，実施方法を理解したうえで適応を選ぶことが，訓練効果を上げる鍵となる。

ここでは，各嚥下手技の意義と方法および禁忌や適応上の留意点を解説する。

▶ Chapter 2 嚥下手技に共通する留意点 → (eラーニング▶スライド2)

ここでは，各種手技に共通する留意点をあげる(表1。なお，各手技に特有の留意点は，それぞれの項で述べる)。

第一に嚥下手技は，実際の嚥下場面で対象者へおもに口頭指示にて伝えて行うため，重度の失語症や難聴，認知症などがなく，聴覚的な言語理解が可能で，伝えられたことを実行できることが前提である。聴覚的な理解が可能でも，場合によっては担当者が実際に試行してみせ，ともに行って体得を促すとよい。その際は，患者の実行状況をよく観察して理解度合を把握しながら，本人のペースに合わせて指示するとよい。

効果については，日常的に用いる際に嚥下造影検査や嚥下内視鏡検査，筋電図などで，その都度確認することは不可能である。手技を用いた際に咳払い，むせ，咯出などの減少というような変化があるかどうかをよく観察し，効果や適応，使用の継続などについて考えながら進めたい。

▶ Chapter 2の確認事項 ▶ eラーニング スライド2対応

- 1 直接訓練に用いる嚥下手技共通の留意点を理解する。

表1 嚥下手技に共通する留意点

- ・ 患者自身が伝えられたことを実行できることが前提。
- ・ 場合によっては担当者が実際に試行してみせ，ともに行って体得を促すとよい。
- ・ 患者の実行状況をよく観察しながら，本人のペースに合わせて指示するとよい。
- ・ 手技を用いた際の症状の変化をよく観察し，効果や適応，使用の継続などについて考えながら進めたい。

食具・自助具・食事 介助方法

Lecturer ▶ 竹市美加

訪問看護ステーション たべる

学習目標 Learning Goals

- 安全に食べるために必要な食具の条件がわかる
- 自助具が備えるべき条件がわかる
- 食食用自助具の種類がわかる
- 安全・自立につなげる食事姿勢の調整がわかる
- 安全な食事介助方法がわかる
- 食事の自立につなげる方法がわかる

▶ Chapter 1 はじめに → (eラーニング▶スライド1)

むせや食べこぼし、誤嚥などの原因の一つに、食具や食事姿勢を含めた食事環境や介助による影響がある。特に摂食嚥下障害がある場合においては、誤嚥性肺炎、窒息に加え、摂取量の低下は低栄養・脱水などのリスクにつながる。捕食動作に障害がある場合においても、食具や食事環境を調整することで、食事の自立につながる場合も多々ある。食べやすく工夫された食具、食べやすい食事環境を調整し、適切に介助することで、安全・自立につながる。

▶ Chapter 1の確認事項 ▶ eラーニング スライド1対応

- 1 食事介助の重要性を理解する。

▶ Chapter 2 福祉用具・食具・自助具 (表1) → (eラーニング▶スライド2)

福祉用具は障害者のために作られたもので、自立支援(補完)用具と、介助支援(介助量軽減)用具に分類される。自助具とは、身体機能や身体構造上の問題により、困難が生じている日常生活動作を、安全にかつ可能な限り自分で遂行できるようにするために、特別(個別)に工夫された道具のことであり、自立支援用具に含まれる。

表1 福祉用具・食具・自助具の定義

福祉用具	自立支援(補完)用具	障害者が生活動作を行いやすくすることを目的とした用具
	介助支援(介助量軽減)用具	介助者が安全に介助を行いやすくすることを目的とした用具
食具		食事に用いる器具・容器・食器(日本国語大辞典より)
自助具		身体機能や身体構造上の問題により、困難が生じている日常生活動作を、安全にかつ可能な限り自分で遂行できるようにするため、特別(個別)に工夫された道具のことである。

認知症(認知機能障害)がある ときの食事介助

Lecturer ▶ 福永真哉

川崎医療福祉大学リハビリテーション学部
言語聴覚療法学科教授

学習目標 Learning Goals

- 認知症(認知機能障害)の種類と、摂食嚥下障害の特徴を知る
- 認知症(認知機能障害)があるときの食事介助法がわかる

▶ Chapter 1 はじめに → (eラーニング▶スライド1)

本章では、認知症(認知機能障害)があるときの食事介助について、まず、認知症(認知機能障害)それぞれの定義を示し、障害の種類ごとの摂食嚥下障害の特徴について解説する。次に認知症(認知機能障害)があるときの症状に応じた食事介助方法について解説する。

▶ Chapter 2 認知症(認知機能障害)とは(表1) → (eラーニング▶スライド2)

認知症とは、意識障害によるものを除き、明瞭な意識下において、脳疾患で複合的に認知機能が障害される一つの症候群で、通常は慢性あるいは進行性であり、周辺症状として精神症状、行動障害がみられる。認知機能障害とは、おもに脳損傷に起因する運動麻痺や感覚・知覚障害では説明のできない言語、行為、認知、記憶、注意、実行機能などの障害である。特に急性期は意識障害が出現しやすいので、食事介助にあたっては事前に意識障害の有無を把握し、明瞭な意識下で生じる認知症(認知機能障害)によって生じる摂食嚥下障害とは区別することが必要となる。

▶ Chapter 2の確認事項▶eラーニングスライド2対応

- 1 認知症の定義を理解する。
- 2 認知機能障害の定義を理解する。

表1 認知症、認知機能障害の定義

認知症とは

- ・意識障害によるものを除き、明瞭な意識下において、脳疾患で複合的に高次脳機能が障害される一つの症候群である
- ・通常は慢性あるいは進行性である
- ・周辺症状として精神症状、行動障害がみられる

認知機能障害とは

- ・おもに脳損傷に起因する運動麻痺や感覚・知覚障害では説明のできない言語、行為、認知、記憶、注意、実行機能など認知機能に生じる障害の総称

食事時の口腔内装具(義歯, PAP, PLP)

Lecturer ▶ 鄭 漢忠

北海道大学大学院
歯学研究科口腔顎顔面外科学教授

学習目標 Learning Goals

- 食事時の口腔内装具の種類を理解する
- 食事時の口腔内装具の重要性を理解する
- 食事時の口腔内装具の使用上のポイントを理解する

▶ Chapter 1

食事時の口腔内装具の種類 → (eラーニング▶スライド2)

食事時の口腔内装具として、最も広く用いられているのは義歯である。PAPは主として口腔癌切除後に舌と口蓋の接触の強化を目的につくられる装具である。PLPは主として先天性神経筋異常、脳性麻痺、外傷、など種々の原因によって生じた軟口蓋麻痺患者に用いられる。軟口蓋挙上装置の適応は軟口蓋の長さが一定以上あり、咽頭の動きがあり、運動性の低下した鼻咽腔閉鎖機能不全とされている。そのほかのものとして、Swalloidがあげられる。Swalloidは上顎のみに用いる義歯様の装具で、義歯を長期にわたり使用していない、もしくは下顎義歯が使用不可能な患者に用いられる。これにより嚥下時の上下顎のストップや舌の正常な動きが期待される。

▶ Chapter 1の確認事項 ▶ eラーニング スライド2対応

- 1 食事時に用いる口腔内装具の種類を理解する。

▶ Chapter 2

義歯の種類① 総義歯 (complete denture)

→ (eラーニング▶スライド3)

総義歯は上顎、下顎に歯が1本も残っていない人のための装具である。図1左は上が上顎の義歯、下が下顎の義歯で表側からみたものである。図1右は、それぞれを裏側からみたものである。総義歯の形は患者固有の口腔の状況によって異なるため、他人の義歯を使用することはできない。また、義歯の形や大きさは患者の義歯と頬や舌などの筋肉とのバランスなどによって決定される。写真の人工歯の部分には、その人独自の嚥み方が与えられている。

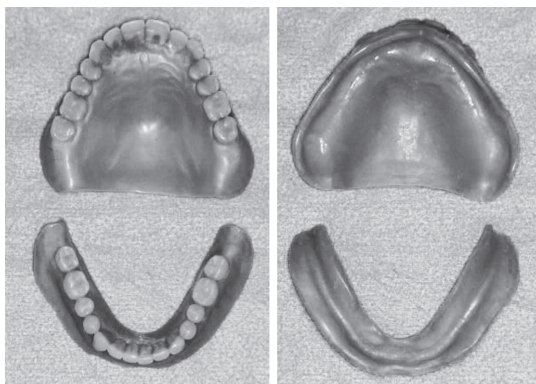


図1 総義歯 (complete denture)